

次期八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）に対する
パブリックコメントの要旨及び戦略への反映について

◎戦略へ反映するもの
○既に意見の趣旨が記載されているもの
△今後の参考とさせていただきます

No.	意見要旨	戦略への 反映（※）	考え方
1	無理せず楽しく散歩をするためには、拠点となる自宅や勤め先から気軽に行ける場所であることが重要です。わざわざ車やバスで行く必要がある場所では、気軽な散歩は実現できません。また、各人の拠点が異なる以上、各人の散歩道は異なるため、特定の散歩道（男山の散策路を除く）を整備しても一部の人のみにしか利用されないことから、行政が費用をかけて整備する意味は限定的です。 むしろ重要なのは、散歩の目的地となる魅力的な憩いの場所を提供することです。カフェや自動販売機、美しい景色、木陰や屋根のある休憩所、トイレ、読書スペース、運動施設、買い物施設など、様々な要素を組み合わせた憩いの場所があれば、そこを目指して歩く人が増えていきます。 このように、特定の散歩道（男山散策路を除く）を整備するのではなく、魅力的な目的地を整備することで、住民が自然に散歩したくなるような環境を整えることが大切です。	○	本市においても、上位計画にあたる「第5次八幡市総合計画後期基本計画」にご提案の内容と同様の記載をしており、暮らしの中で自然と健康になれるしかけづくりとして、出かけることが楽しく健康に過ごすことができる目的地（公園・店舗等）の環境整備を挙げています。 また、総合戦略においては、25頁に「自然と歩きたくなるまちづくりを進めます。」と記載しておりますため、ご意見の趣旨は計画の中に一定反映されているものと考えています。
2	男山散策路について、観光資源としての価値があるため、他地域から人を呼び寄せられる散策路として整備する必要があります。	○	男山散策路については、魅力のある散策路であることから、令和5年度に男山魅力探求発信事業の中でPR動画を作成しました。他の地域から人を呼び込むため、29頁「市内の魅力発信・観光誘客」で記載しておりますように、「YouTube等で国内外へ発信することで、市内への誘客を図ります。」と記載しており、また、28頁「さらに、多くの人が八幡市を訪れ、（中略）ハード・ソフト両面から観光まちづくりに取り組むとともに、」と記載していることから、ご意見の趣旨は計画の中に一定反映されているものと考えています。
3	男山展望台については、他地域から観光客を呼び寄せる拠点として、より充実した施設整備が求められます。この点については、民間企業等関係機関と連携し、管理や運営等することで、ケーブルカーの利用促進にもつながる可能性があります。	△	男山展望台については、「八幡市観光基本計画（2024～2028年度）」において、「神仏習合の聖地」の継承と創造を基本方針の一つとしており、石清水八幡宮のある男山一帯の環境整備を推進することとしています。ご提案の管理運営の手法は、個別具体的な事業内容となりますので、今後の参考とさせていただきます。
4	スポーツを通じた市民の交流促進について、世代や性別に関わらず、誰もが平等に参加できるスポーツを推進し、市民全員が参加できるような大会を開催してはどうでしょうか。競技は、モルックが有力と考えます。 行政としても、場所とモルック用具の提供だけで済むため、比較的安価な投資で実現可能です。また、各公園にモルック競技スペースを設けることで、市民は散歩の途中で気軽に立ち寄って楽しむことができます。 このような環境整備により、市民が自然に集まり、様々な人々と交流しながら競技を楽しめ、また、大会を開催することで、さらなる交流の機会を創出することも可能であり、「チームやわた」としての一体感が醸成されていくことが期待できます。	△	世代や性別を問わず誰もが参加できるスポーツを通じた市民交流は、地域コミュニティの活性化において重要であると考えています。なお、モルックについては、既にスポーツ推進委員協力のもと、各種イベントの際に実施しております。また、例に挙げていただきました公園におけるモルックの設置や「チームやわた」としての一体感の醸成のための大会の開催などについては個別具体的な事業内容となりますので、今後の活動の際等、参考にさせていただきます。

No.	意見要旨	戦略への 反映（※）	考え方
5	やわた未来いきいき健康プロジェクトにおける現行のポイント付与システムを拡充し、より幅広い活動に対してポイントを付与することで、市民の積極的な参加を促してはいかがでしょうか。 具体的な活動としては、指定スポーツチームへの登録や大会参加、体育館などの施設利用、献血、スマートフォンアプリの登録、行政講座への参加などが考えられます。これらのポイントは単年度で消失せず、複数年にわたって貯められる仕組みとし、ポイント数のランキングを表示することで市民の競争意識を刺激し、継続的な健康増進活動への動機付けとします。 また、ポイントの使途についても選択肢を増やし、胃がん検診の自己負担額への充当や、買い物商品の配送サービス利用、ヤワタカラ認定商品の購入、スポーツクラブ利用料金の一部として使用できるようにします。これにより、市民の健康増進活動への参加意欲を高めることができます。 さらに、ポイントの付与・利用から、施設マップの確認、各種大会や講座の申し込みまで、すべてスマートフォンで行えるようにすることで、市民のデジタル機器活用を促進し、デジタル社会を推進します。	△	ポイント拡充の考え方については、現状、1日あたりの歩数や1カ月の平均の歩数に応じたポイント付与や、八幡市主催の一部事業への参加、健康診断を受診することによるポイント付与を行っています。また、ポイントは単年度のみ有効となっています。ポイント拡充を検討する上で、事業を一般財源で実施しているため、拡充範囲に限度がございます。列挙いただきました事業等や行政講座等はインセンティブの有無に関わらず、市民の自発的な参加や協力であるべきものであり、ポイント付与の対象とするのは馴染まないものと考えております。 ポイントの使途については、現状、図書カードとクオカード、市内保育園・幼稚園・認定こども園、小学校・中学校等への寄附となっております。拡充については、クオカードPayの導入が決まっており、今後も1ポイント＝1円としての用途を広げていくほか、本市健康関連事業への充当についても検討してまいります。 デジタルの活用については、スマートフォンアプリで事業に参加できるほか、WEBサービスを用いて、獲得ポイント・体組成計での測定結果、歩数データ等を確認できます。また、各種大会や講座の申し込みの一部では、八幡市のホームページから電子申請を受付しておりますが、今後は、更なる拡大を検討しております。
6	KPIについて現状値と目標値が同値のものがありますが、現状と同値のものをKPIとする意味はあるのでしょうか。人口減少が進む中、同値であり続けることに戦略的KPIとする意味がある等の理由があるならば、それらが分かる表現にするほうが意義が理解しやすいと思います。	◎	人口減少が進む中でのKPIの現状維持には、サービス水準の維持や地域の持続可能性の確保等の意味合いを持たせております。ご指摘のとおり戦略的意義を持たせるため、目標値について、同値に据え置いていたところから、「現状値を維持」という表現に修正します。
7	子どもの放課後についてです。八幡市は、放課後学習クラブやスタディサポート事業など、放課後の子どもの“学び”に対する取り組みが充実していると思います。ですが、スポーツに関する取り組みが、スポーツ協会に関するものしかありません。昨今のニュースでも、こどもの運動能力の低下が取り上げられています。また、八幡市内には小さな児童遊園が多く、子どもたちがボール遊びできる公園も限られています。さらに、共働き世帯の増加により、子どもが体を動かす機会が減ってしまいます。学びは、学習だけでないと思います。 そこで、親の忙しさにも影響されない子どもの放課後の時間に、各小学校で学習クラブのようなスポーツ教室のような事業を実施されてはいかがでしょうか。	△	子どものスポーツへの関心を高める取組として、スポーツ推進委員による活動、スポーツ協会による「スポーツカーニバル」や「子どもわくわく教室」などに取り組んでいます。しかしながら、放課後においては、専門的な指導者の確保や継続的な配置等の課題があるため、今後の参考とさせていただきます。
8	廃校施設の活用についてです。男山エリアには、2つの小学校跡地があります。八幡市の子育て環境の充実、価値向上を目指して、市内全域から通うことのできる小中一貫校を作られてはいかがでしょうか。他市でも、小中一貫校ができたことで子育て世帯が増加した事例が多数あります。	△	近隣市町村でも施設一体型の小中一貫校が新設されたり、検討されていることは確認しております。ご提案の内容は個別具体的な事業内容となりますので、他市町の成功事例等とともに、今後の参考とさせていただきます。